RM5505 / RM7005 / RM9005 / RM12005

RM5510 / RM7010 / RM9010 / RM12010

RM5520 / RM7020 / RM9020 / RM12020

RM5540 / RM7040 / RM9040 / RM12040

RM5560 / RM7060 / RM9060 / RM12060

RoomMatch™

アレイモジュールスピーカー
設置と安全上のガイドライン

本製品は専門の施工業者による設置のみを対象としています。本書は、一般的な固定設置システムにおけるボーズ RoomMatch™ を対象に、基本的な設置と安全上のガイドラインを施工業者様に提供いたします。設置を開始する前に、本書をお読みください。

警告： 全てのボーズ製品は、各地域、州、連邦、および業界の規制に従って使用する必要があります。各地の建築に関する条例や規制など、適用される全ての法律に従ってスピーカーとマウントシステムを設置することは施工業者の責任です。本製品を設置する前に、各地域の管轄官庁に相談してください。

警告： 重量物の危険なマウントや天井吊り下げは、深刻な人身への危害および機器への損傷の原因となります。適用するマウント方法の信頼性を評価することは、施工業者の責任です。適切な部品および安全なマウント技術の知識を持つ専門の施工業者のみが、天井へのスピーカーの設置を行うことができます。

RoomMatch™ アレイモジュールスピーカーの常設固定設置のガイドライン

本書に記載された設置情報は一般的なガイドラインに過ぎないため、全ての要件および事前注意事項について言及されているわけではありません。従って、本書を使用する場合は、誰でも全ての法的責任を負うものとし、実際に適用される全てのスピーカーアレイ設計およびマウント配置の安全性に対して明示的に責任を負うものとします。

1) 天井スピーカーを設置する際には、事前に資格を有した専門技術者が構造物への取り付けの位置と方法を承認し、建築に関する全ての条例と規制に従っていることを確認する必要があります。マウント面とマウント面に対するスピーカーシステムの設置方法が、システムの総質量に耐えられるだけの強度があることを確認してください。マウント面とブラケットに、システムの質量の 10 倍以上の強度があることを目安にします。

2) 信頼できるメーカーのマウントシステム部品を使用してください。また、使用するスピーカーシステムとその用途に適したマウントシステムを選択してください。入手可能であれば、ボーズのマウントアクセサリーを推奨します。カスタム設計のマウント部品の設計内容と製造については、資格を有した専門技術者が検査確認をする必要があります。

3) ボーズ RoomMatch™ アレイモジュールスピーカーは、一体化されたサイドプレートリギングシステムを特徴とし、専門の施工業者によるスピーカーアレイのマウントを簡単にする設計です。モジュール同士の接続は、付属の M10 規格のネジ類を使用して、一体化されたリギングサイドプレートを使用する必要があります。SAE 規格 3/8″ サイズのネジ類は使用しないでください。SI 規格のネジ類のみ使用してください。SI 規格クラス 10.9（耐力規定済み）のネジ類または同等品を使用してください。（耐力規定済みではない）規格外のネジ類は使用しないでください。

4) スピーカーを吊り下げるための埋め込みナットとしてハンドルを使用しないでください。**ハンドルは耐荷重設計ではありません。**

5) 組み立て後の耐振動性を確保するために、ロックワッシャーや取り外し可能なネジ緩み止め接着剤（LOCKTITE® THREADLOCKER BLUE 242® など）を使用してください。

6) ネジ類の締め付けトルクは、35 フィートポンドから 40 フィートポンド（47 ニュートンメートルから 54 ニュートンメートル）です。ネジ類を締め付けすぎると、キャビネットに修復不可能なダメージを与え、組み立て後の安全性が損なわれる可能性があります。

7) 他のサイズや規格のネジに合わせるために、取り付けポイントの埋め込みナットを改造したり、ネジ切り加工したりしないでください。設置の安全性を損なうだけでなく、スピーカーに修復不可能な損傷を与える原因となります。

8) 落下防止ワイヤーを別途用意して使用してください。その際、マウントシステムとスピーカーの取り付けで使用していない荷重ポイントの埋め込みナットを使用して、落下防止ワイヤーを固定してください。各地域の規制によって要求されていない場合でも、落下防止ワイヤーの使用を推奨します。落下防止ワイヤーの適切な形状や設置については、有資格の専門技術者やリギングの専門家にご相談ください。

注意：設置されたスピーカーアレイには定期点検と日常保守を行い、正常な機能と安全な動作を確認してください。また、構造健全性に悪影響を与える可能性がある腐食やたわみなどがマウント部品と取り付け部品に発生していないかどうか点検してください。劣化した部品や損傷した部品は直ちに交換してください。

注意：スピーカーやマウント用アクセサリーを改造しないでください。不正な改造は、損傷、人身への傷害、死亡事故等の原因となる可能性があります。

注意：アレイ用に一体化されたリギングサイドプレートを使用した RoomMatch のモジュール数は、最大 8 台です。このモジュール数を超えないようにしてください。最大荷重制限のデータについては、製品のラベルおよび pro.Bose.com の Web サイトにアクセスして、『Array Design and Installation Guide』をご参照ください。

安全上の留意項目

ご使用前に、下記の「留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⚠ △記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠ ⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです（左図の場合は分解禁止を意味します）。

❗ ●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

●異常が発生したとき

⚠ 警告

変なにおいや音がしたときは、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐにアンプの電源スイッチを切り、アンプの電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源プラグを抜く
電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に点検をご依頼ください。

落としたり、キャビネットを破損したときは販売店に相談する
ご相談ください
そのままの状態で使用すると、落下してけがや火災、感電の原因となります。販売店に点検、修理をご依頼ください。

●設置、保管するとき

⚠ 警告

総質量に耐える場所に取り付ける
必ず実行
取付場所の強度が不十分なとき、落下や転倒などでけがの原因となります。

設置場所の確認
禁止
スピーカーを取り付ける際には、人が通る場所や、容易に触れる場所に設置しないでください。スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない
禁止
腐食によりブラケットの強度が低下し、スピーカーの落下などの事故の原因となります。

本機の上や周囲に、小さな金属物を置かない
禁止
内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。

スピーカーに対応した専用金具を使用
専用金具を使用
スピーカー取付けに金具を使用される場合は、スピーカーに対応した専用金具をご使用ください。対応外の金具や他社製の金具を使用すると、スピーカーの落下や破損の恐れがあります。

配線および取付は、取扱説明書に記載してある通りに行う
必ず実行
配線および取付は、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。配線、取付を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

不安定な場所に置かない
禁止
ぐらついた台の上や傾いた所、振動する所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや事故の原因となります。

適切なボルト、ナット類を使用する
必ず実行
取付ネジは、スピーカーおよびブラケットの重量を確認した上で天井、壁の材質にあったものを選んで取り付けを行ってください。強度が足りませんとスピーカーの落下により、けがや事故の原因となります。

ネジは確実に締める
必ず実行
締め付けが弱かったり、奥まで締めこんでいない場合は、落下してけがの原因となります。

落下防止ワイヤーを使用する
落下防止ワイヤーを使用
落下防止ワイヤーは指定された場所か落下時に耐えうるところ（スピーカー本体およびブラケットの総質量の 10 倍）に確実に取り付けてください。強度が足りませんと、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。

スピーカーコードは安全な場所に這わせる
必ず実行
スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。

本体のカバーを外したり、分解や改造をしない
分解禁止
火災や感電、けがの原因となります。内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

梱包袋は安全な場所に保管する
安全な場所に保管
製品を梱包していた袋は、お子様の手の届かない安全な場所に保管してください。窒息などの事故の原因となります。

アンカーは必ず奥まで差し込む
必ず実行
アンカーは必ず奥まで差し込んでください。また、アンカー用の下穴のサイズが大きすぎるとアンカーが効かず、スピーカーが落下して、けがの原因となります。アンカー用の下穴の深さとサイズは必ず守ってください。

●設置、保管するとき

⚠ 注意

設置作業は専門業者へ
ご相談ください
設置に関しては、専門の業者にご依頼ください。

２人以上で取り扱う
必ず実行
移動したり持ち上げたり運んだりする場合は、２人以上で取り扱ってください。１人で行うと、体を痛めたり本機を落としてけがの原因となる事があります。

転倒 ・ 落下防止の処置をする
必ず実行
転倒 ・ 落下防止の処置をしないと、落ちたり倒れたりして、けがや事故の原因となります。

ごみ、落下物に注意
注意
ブラケットとスピーカーの隙間に、ごみ、落下物などが入らないようにしてください。ブラケットにスピーカーの重量以上の力がかかり、落下などでけがや事故の原因となります。

高温の場所に置かない
禁止
窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所、熱源のそばなど、温度が異常に高くなる場所に機器を設置 ・ 保管しないでください。過熱や部品の変形などにより、火災や感電の原因となることがあります。

ほこり、油煙、湯気、湿気、高温の場所に置かない
禁止
ほこり、油煙、湿気の多い場所や、直射日光の当たる場所、直接ライトが当たる場所、高温になる車の中などには置かないでください。故障の原因となります。

けがに注意
注意
スピーカーを高いところに設置される場合には、足下が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。

スピーカーコードを傷付けない
禁止
スピーカーコードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、加熱したり、上に重い物を乗せたりしないでください。コードが破損して、火災や故障の原因となることがあります。

表面を変質させる素材を使わない
禁止
アルコール、ベンジン、シンナー、あるいはスプレー式殺虫剤、消臭剤、芳香剤などの揮発性のものをかけないでください。外装の変質により、ブラケットが破損し、スピーカーの落下の原因となることがあります。

●使用するとき

⚠ 警告

機器のそばに、ろうそく等の火がついているものを置かない
火気禁止
引火して火災の原因となります。

大音量で長時間続けて聞かない
禁止
大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンのご使用時にはご注意ください。

本機には磁気材料が含まれています
磁気材料使用

⚠ 注意

スピーカーにより掛かったり、ものをぶら下げたりしない
禁止
スピーカーを取り付けた後、スピーカーにより掛かったり、ものをぶら下げたりして重量を掛けますと転倒や落下などで、けがや事故の原因となります。

長時間音が歪んだ状態で使用しない
禁止
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

定期的な点検をする
必ず実行
定期的にスピーカーとブラケットの設置状態を点検し、設置の安全性が保たれているかどうか確認してください。またスピーカーケーブルの配線状態や、音割れ・歪みの有無、破損・欠損等の異常がないかどうか点検してください。異常がある状態で使用すると、故障や事故の原因となります。

配線時は電源プラグをコンセントから抜く
必ず実行
電源プラグをコンセントに差したまま行うと、感電の原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
音を小さく
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

その他　注意事項

- この設置ガイドは、施工業者様用です。
- 建築基準法や地域の条例、安全基準などを考慮して、設置場所や取付方法を決めてください。
- 取り付ける場所の強度を確認してください。取付面とブラケットに、スピーカー本体とブラケットを含めた質量の 10 倍以上の強度があることを目安にします。

はじめに

概要

各RoomMatch™モジュールは2ウェイ、フルレンジのスピーカーで、高品質なライブ音楽と音声を対象とした固定設置SRシステム向けに、Progressive Directivity Arrays を構築するように設計されています。RoomMatch™ モジュールは、ラインアレイと点音源における従来型設計の限界を克服することで、さまざまなサイズと形状の空間、音響条件、および予算に合わせて、これまでにないサウンドクォリティーを実現し、スピーカーの新しいカテゴリーを創出します。システムの柔軟性によって、単一のモジュールから最大 8 モジュールを使用した正確かつ定指向性のカバレッジが提供され、事実上空間の形や音響に影響されない、全体に均一な音質を提供することが可能です。

さらに低音レベルやインパクトが要求されるシステムにおいて、RoomMatch™ RMS215 サブウーファーモジュールを組み合わせて使用可能です。RMS215 サブウーファーモジュールは、リギング用の別売サイドプレートマウントキットを使用して、RoomMatch™ モジュールとアレイを組むことが可能です。床に置いて使用する場合は、サイドプレートマウントキットは必要ありません。サブウーファーモジュールだけを吊り下げることはしないでください。サブウーファーだけで使用する場合は、床に設置してください。

図 1. RoomMatch™ RMS215 モジュールおよび RM7020 モジュールの図

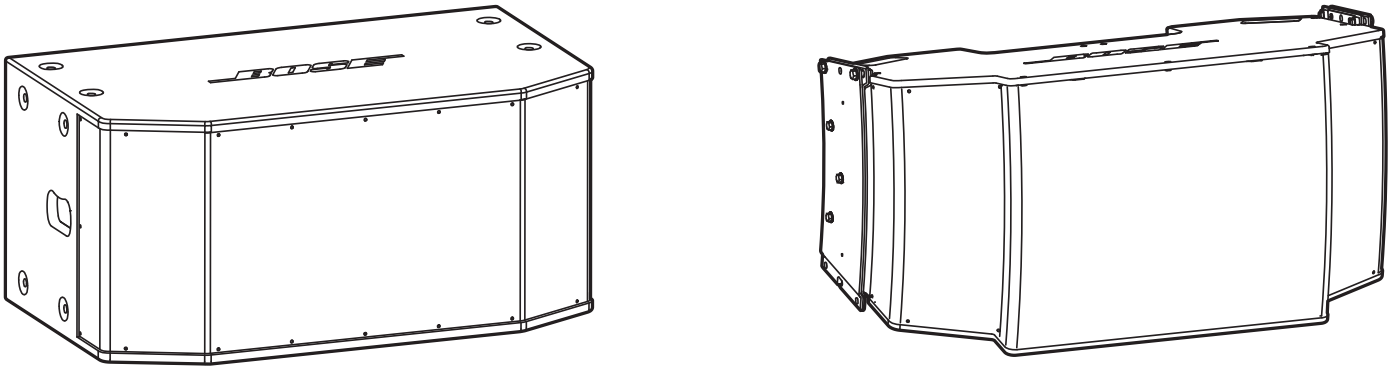
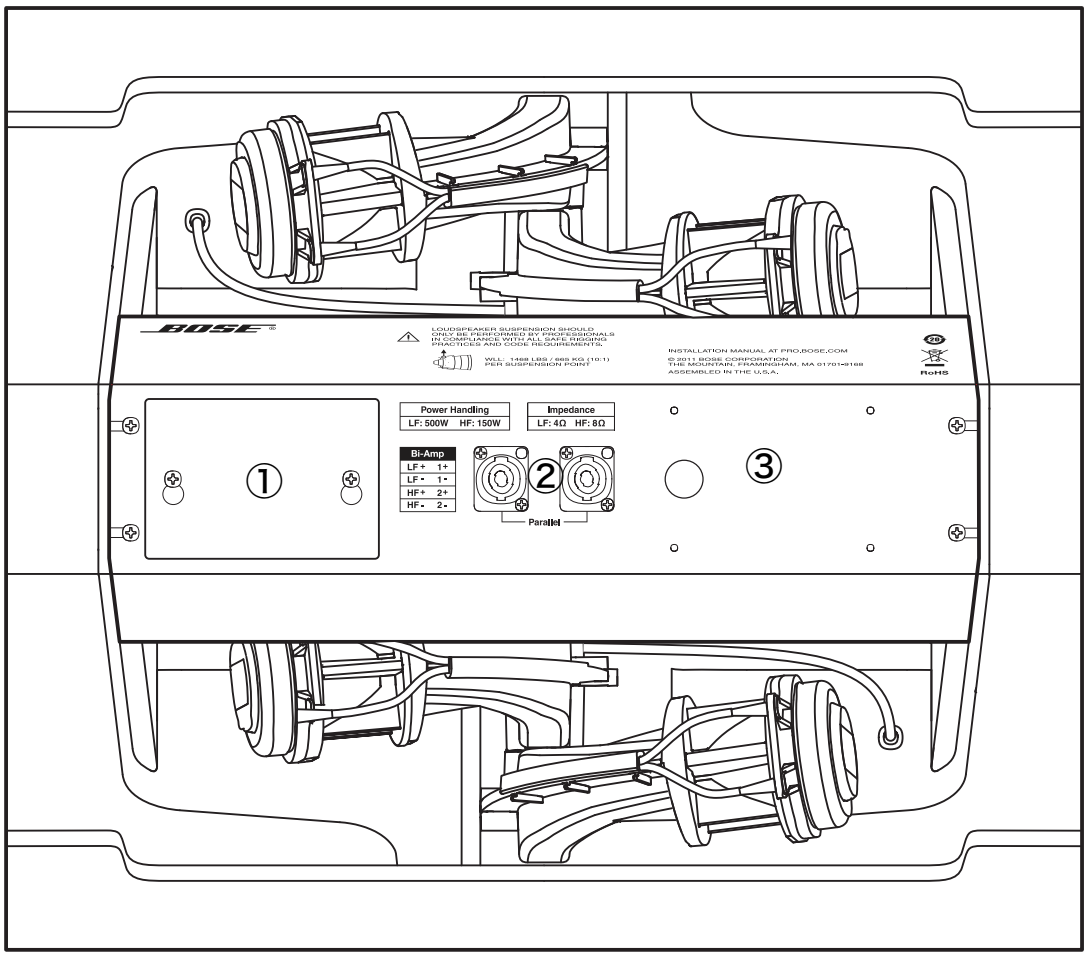


図 2. RoomMatch™ RM7020 モジュール背面入力パネル

1. サービステストパネル
2. 入力コネクター
3. ゲイン減衰キット用取り付け穴



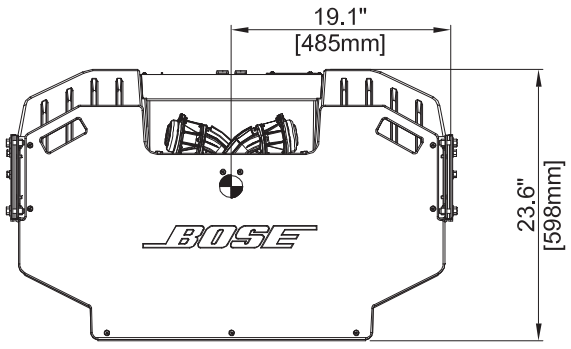
製品仕様（フルレンジアレイモジュール）

サブウーファーモジュールと追加の仕様情報と設置情報については、pro.Bose.com をご参照ください。

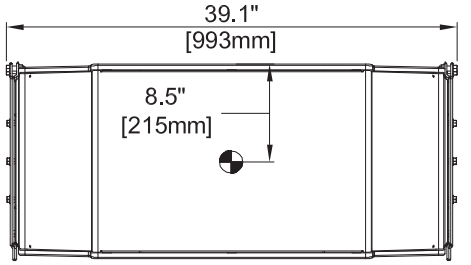
周波数特性（±3dB）	60 - 16 kHz
周波数レンジ（-10dB）	55 - 16 kHz
推奨クロスオーバー	550 Hz（active, external DSP）
推奨ハイパスフィルター	50 Hz（24 dB / octave）
許容入力（連続、100 時間）	低域 500 W / 高域 150 W
許容入力（ピーク）	低域 2000 W / 高域 600 W
推奨アンプ出力	低域 : 500〜2000 W / 高域 : 150〜600 W
低域	Bose LF10 ultra-linear 10 インチウーファー x 2（3 インチボイスコイル使用）
高域	Bose EMB2 中高域コンプレッションドライバー x 6（2 インチボイスコイル使用）
インピーダンス	低域 4 Ω / 高域 8 Ω
エンクロージャー材質	バルチックバーチ、合成樹脂、スチールフレーム
外形寸法	下記寸法図参照
質量	55.8 - 56.7 kg（垂直指向特性の違いによる）
入力端子	NL4（スピコン）x 2

製品の寸法（単位：mm）

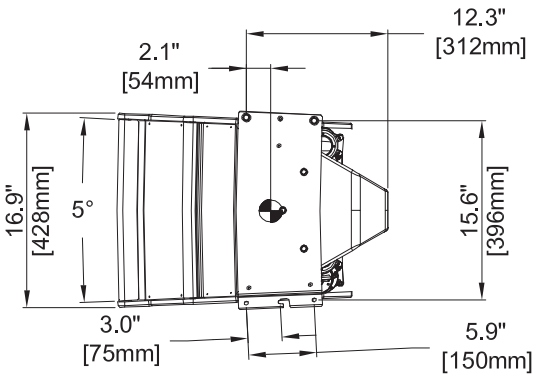
RM5505 / RM7005 / RM9005 / RM12005



Top View

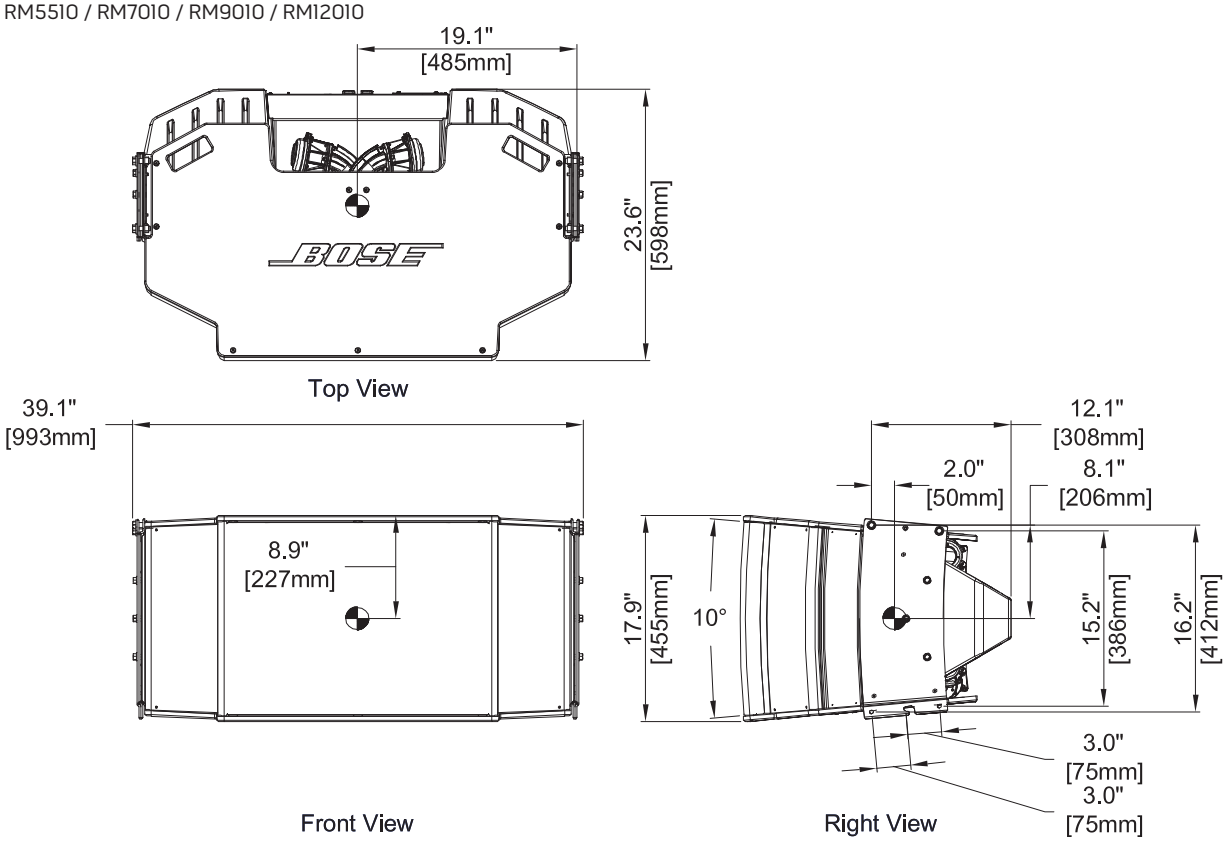


Front View

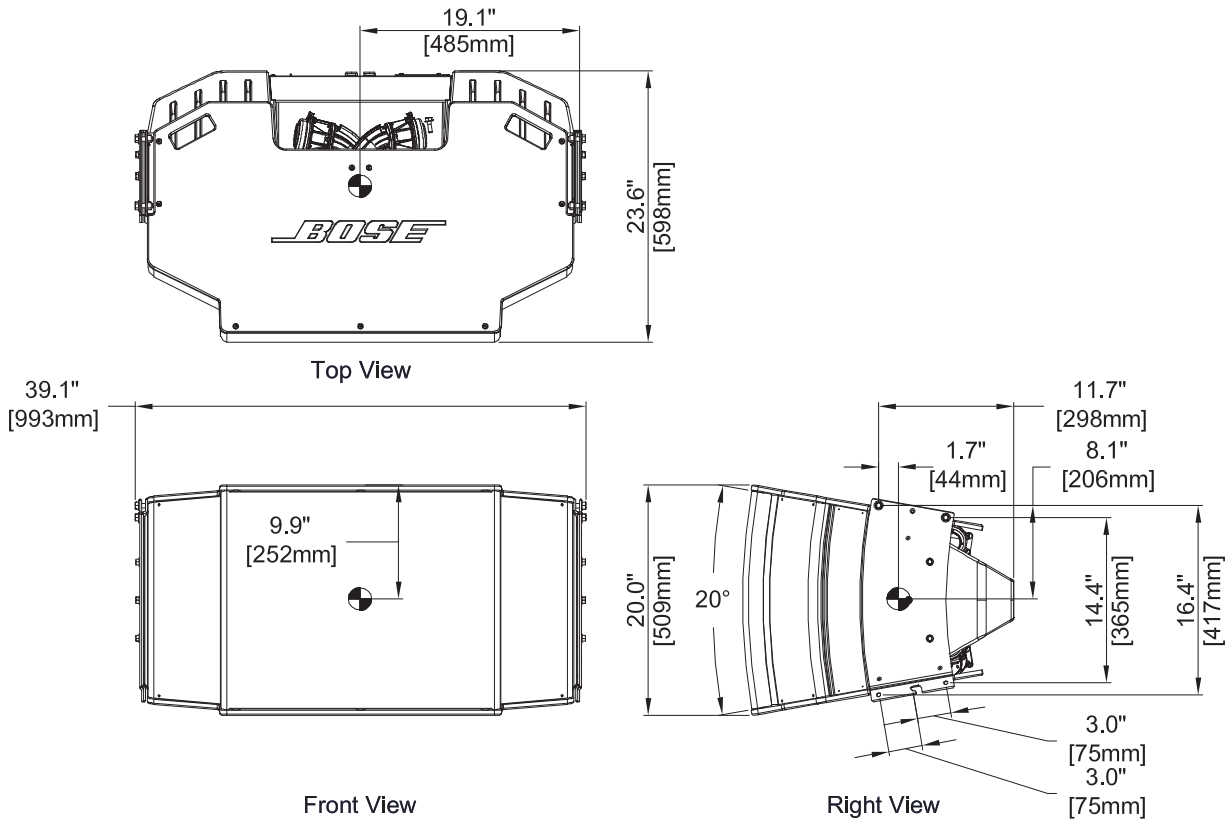


Right View

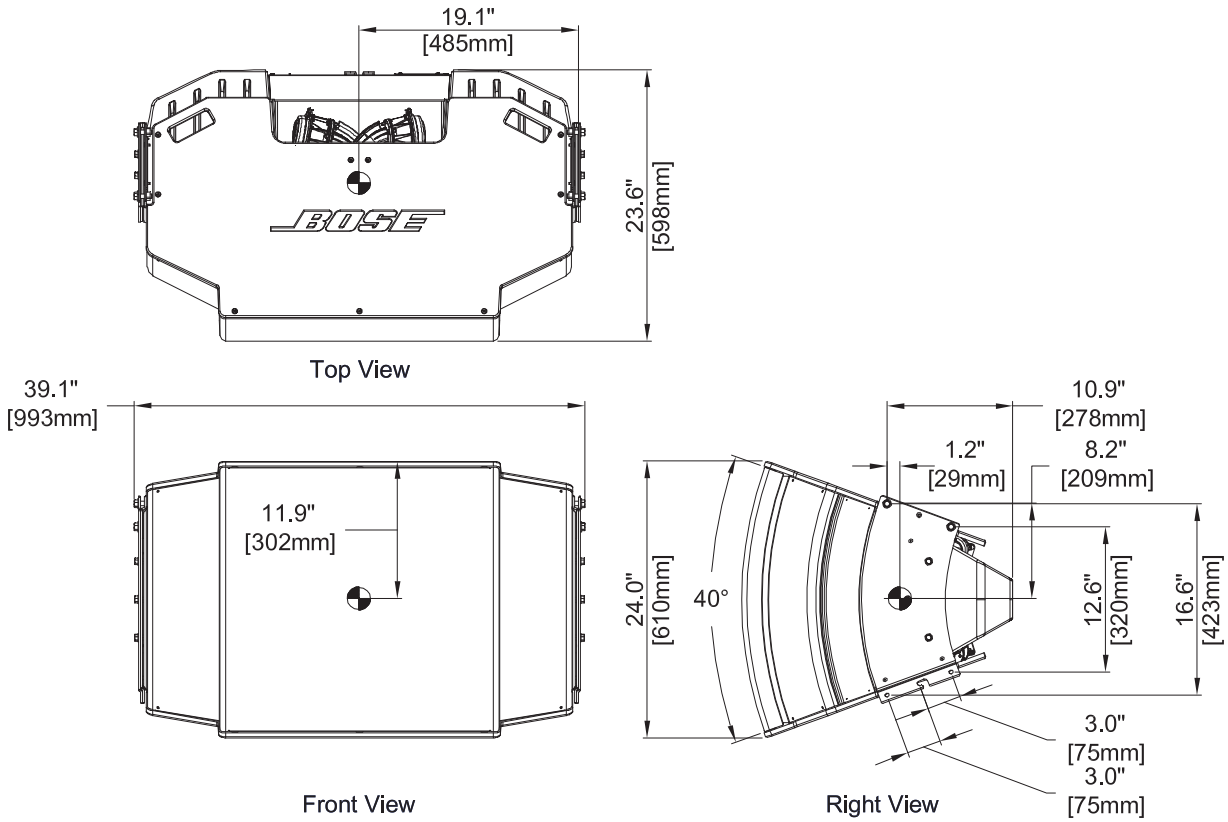
RM5510 / RM7010 / RM9010 / RM12010



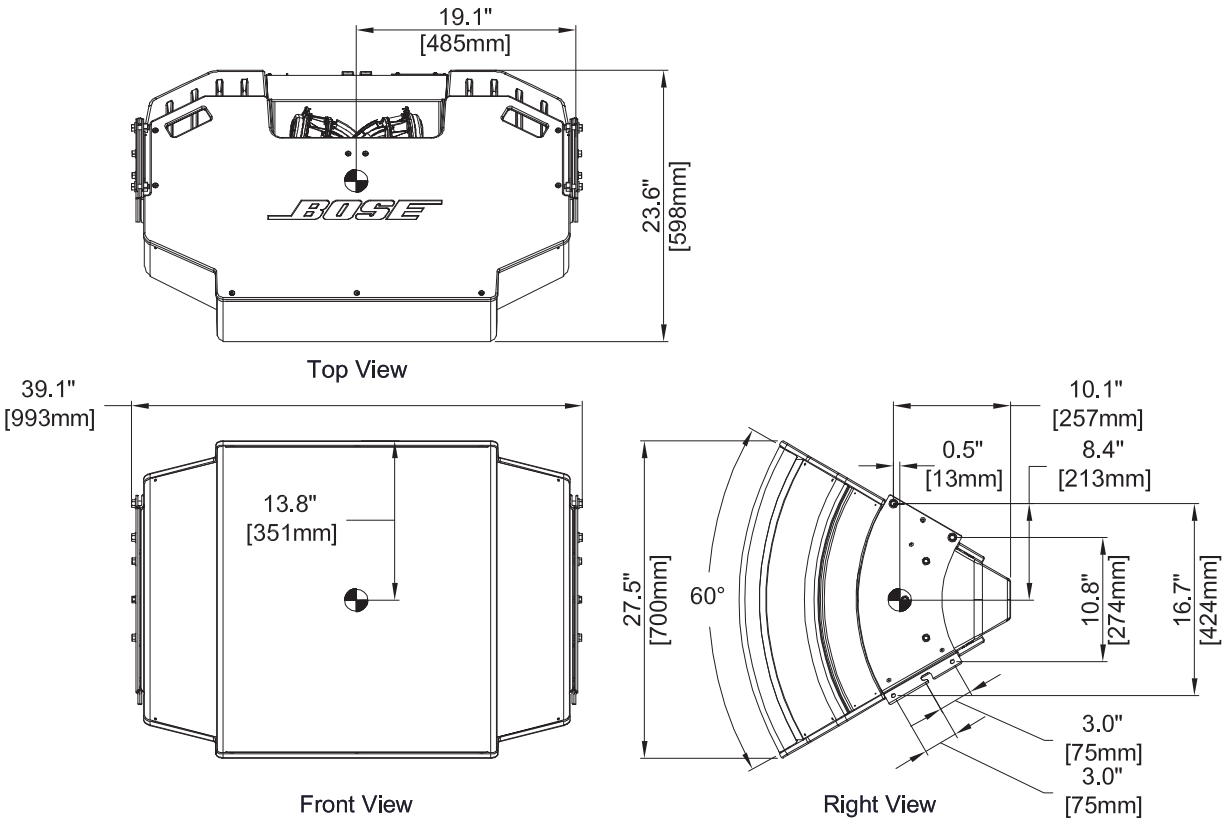
RM5520 / RM7020 / RM9020 / RM12020



RM5540 / RM7040 / RM9040 / RM12040



RM5560 / RM7060 / RM9060 / RM12060



推奨されるアンプと DSP 機器

推奨アンプ出力

各 RoomMatch™ モジュールに推奨されるアンプは、外部 DSP アクティブクロスオーバーフィルターを使用した 2 チャンネルアンプです（モジュールにはパッシブクロスオーバーネットワークは含まれません）。各モジュールには、6 個のコンプレッションドライバーを並直列接続して組み合わせた、インピーダンス 8Ω のトランスデューサーが含まれています。組み合わせた高域ドライバーの許容入力は 150 ワット（連続）、600 ワット（ピーク）です。各モジュールには、2 本のウーファーを並列接続し、インピーダンス 4Ω のトランスデューサーも含まれています。低域ウーファーの許容入力は 500 ワット（連続）、2000 ワット（ピーク）です。

特定のスピーカーに対して適切なアンプのサイズを選択するには、トランスデューサーの連続（RMS）の出力定格、入力音源のダイナミックレンジ、要求される音圧レベルやその他の要因の分析が必要です。一般的なガイドラインとして、通常の設置において RoomMatch™ アレイモジュールの性能を最大限にするためには、以下のようにモジュールにつき 2 チャンネルのアンプ出力の使用を推奨します。

RoomMatch™ Array Module	定格インピーダンス	アンプチャンネル	推奨アンプ出力
低域	4 Ω	1	500 ∽ 2000 W
高域	8 Ω	2	150 ∽ 600 W

ボーズ® PowerMatch™ PM8500 コンフィギュラブルプロフェッショナルアンプ（別売）は、簡単な設定によって RoomMatch™ のモジュールとアレイの推奨アンプ出力を提供することができます。PM8500 では、アクティブクロスオーバー、EQ、アライメントディレイ、プロテクションリミッター機能、アレイ補正 EQ 設定、カージオイドサブウーファー設定など、RoomMatch™ RMS215 サブウーファーとともに使用する際に推奨される全ての信号処理のプリセットも提供されます。

推奨信号処理

DSP（Digital signal processing：デジタル信号処理）機器は、サブソニックプロテクト、クロスオーバー、イコライザー、およびプロテクションリミッターの各機能に必要です。RoomMatch™ フルレンジモジュール用に推奨されるアクティブクロスオーバーでは、ボーズ PowerMatch™ PM8500 プロフェッショナルアンプまたはボーズ ControlSpace® ESP（別売）で以下のフィルターが使用されます。

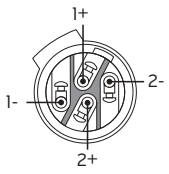
Full-Range Module Applications (for use without subwoofers)						
Driver Elements	High-Pass Filter			Low-Pass Filter		
	Type	**Slope**	**Frequency**	**Type**	**Slope**	**Frequency**
低域	Butterworth	24 dB/octave	50 Hz	Butterworth	24 dB/octave	510 Hz
高域	Butterworth	24 dB/octave	580 Hz	none	none	none

Full-Range Module with Subwoofer Applications						
Driver Elements	High-Pass Filter			Low-Pass Filter		
	Type	**Slope**	**Frequency**	**Type**	**Slope**	**Frequency**
Subwoofer RMS215	Butterworth	12 dB/octave	40 Hz	Butterworth	24 dB/octave	80 Hz
低域	Butterworth	24 dB/octave	80 Hz	Butterworth	24 dB/octave	510 Hz
高域	Butterworth	24 dB/octave	580 Hz	none	none	none

コネクターの接続方法

RoomMatch™ アレイモジュールには、Neutrik® NL4 コネクターが 2 つ装備されています。それぞれのコネクターは並列になっており、追加モジュールへのループスルー接続が可能です。コネクターは、以下のように高域（HF）と低域（LF）のトランスデューサーに個別のアンプ出力を提供するように接続されています。

NL4 Connector Pin	Driver Bandpass Section
1+	LF drivers - positive
1 -	LF drivers - negative
2+	HF drivers - positive
2 -	HF drivers - negative



アレイリギング

各 RoomMatch™ アレイモジュールには、リギング設置用サイドプレートが標準装備されています。このリギングシステムは、ブラケットとモジュールの質量の 10 倍以上の強度を保ちながら、8 台のモジュールを使用した標準的な固定設置アレイを短時間で施工できるように設計されています。また、RoomMatch™ RMS215 サブウーファーは、オプションの Side-Plate Rigging for RMS215 を使用して、アレイ内でフルレンジモジュールに統合できるように設計されています。吊り下げられたアレイに RoomMatch™ モジュールを接続するには、以下の手順を推奨します。

注意：既設配線と安全規格の吊り下げシステム（例：チェーンホイストモーターやワイヤーロープスリング）の設置が前提となります。常設の吊り下げ方式としてモーターを使用できます。または、従来型のリギング部品への取り付けを目的として、アレイを最終位置まで一時的に吊り上げるために使用することもできます。

注意：スピーカーを持ち上げる場合は、必ず両側に 1 名ずつ立ち、2 名で作業してください。

はじめに - 推奨する工具

15mm ソケットとソケットレンチ（モジュール間ボルト：M10 × 30mm）× 2

17mm ソケットとソケットレンチ（フレーム拡張バーを使用する場合）× 2

5/16 インチドリフトピン（ボルト位置合わせ用オプション）× 2

設置のためのモジュールの準備

手順 1 - 輸送用ダンボールから RoomMatch™ モジュールを取り出し、梱包材を取り除き、目標とする吊り下げポイントの真下の床面にモジュールを置きます。梱包に含まれているオレンジ色の仮設用専用ハンドルを取っておきます。

注意：モジュールを置く際にはグリル面を下にしないでください。

注意：水平な面にモジュールを置きます。モジュールの荷重がドライバーアダプターにかかっていないことを確認します。

手順 2 - 仮設用専用ハンドルの位置を確認し、各モジュールのリギングサイドプレートに装着します（図 3 と図 4 を参照）。

手順 3 - 各モジュールのリギングサイドプレートの天面から 4 本の M10 ボルトを取り外します（片側につき 2 本）。

図 3. 仮設用専用ハンドル

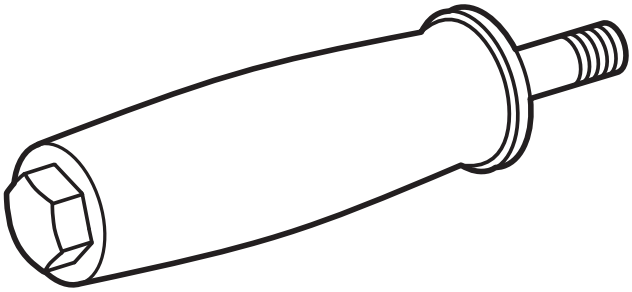
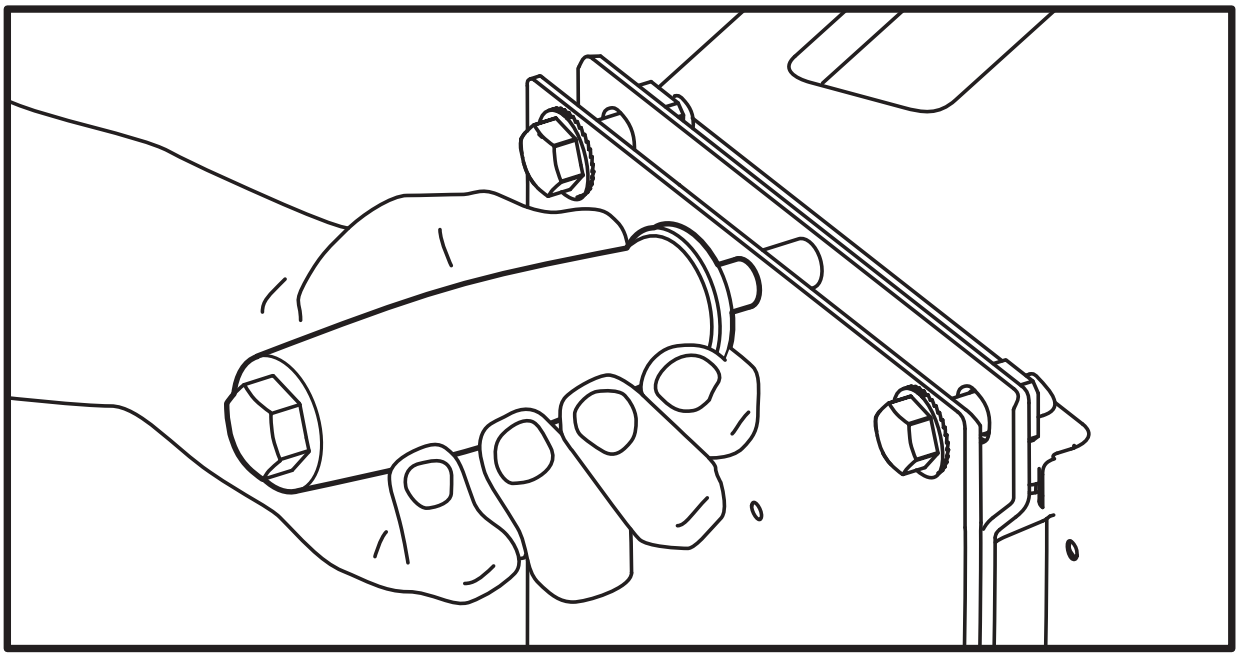


図 4. 仮設用専用ハンドル



アレイの組み立て：モジュール間の接続

1) RoomMatch™ Array Suspension Angle Calculator ソフトウェアを使用して、必要な傾斜角度にするためのアレイフレーム上の穴位置を決定し、フレームの荷重制限をアレイが超えていないことを確認します（この情報については、各地域のボーズユーザーサポートセンターまたはフィールドエンジニアにもお問い合わせください）。
2) 目標のアレイ位置に配置されたチェーンモーターの真下にアレイフレームを置きます。
3) ソフトウェアによって求めたアレイフレームの穴位置に、5/8 インチ鍛鋼製シャックルを取り付けます。
4) チェーンモーターを下げ、アレイフレームに設置されたシャックルへ取り付けます。
5) 設置される 1 番目のモジュール（最上位）の高さより少し上の高さまでアレイフレームを吊り上げます。
6) 側面に 1 名ずつ配置し、吊り下げられたアレイフレームの真下に 1 番目のモジュールを置きます。図 5 をご参照ください。
7) アレイフレームを 1 番目のモジュールまで下げ、ハンドルのピンをフレームのスロットに挿入します。
8) ハンドルを使用してモジュールを前方へ引き寄せ、モジュールとフレームのボルト穴の位置を合わせます (注意：後ろ側の穴にドリフトピンを使用してから、前側の穴にボルトを先に挿入すると作業し易くなる場合があります)。
9) 4 本のボルト（片側につき 2 本）を挿入し、全てのボルトが設置されるまで各ボルトを指で締めます。
10) ソケット工具を使用して、4 本全てのボルトを締めます。締め付け付けトルクは、35 フィートポンドから 40 フィートポンド（47 ニュートンメートルから 54 ニュートンメートル）です。
11) モジュールの底面が腰の高さあたりになるようにアレイフレームを吊り上げます。
12) 2 番目のモジュールをアレイの真下に置きます。
13) 側面に 1 名ずつ配置して 2 番目のモジュールを吊り上げ、ハンドルのピンを 1 番目（最上位）のモジュールのサイドプレートの位置合わせスロットに挿入します。図 6 をご参照ください。
14) 1 番目（最上位）のモジュールのハンドルを動かないように握り、2 番目（最下位）のモジュールのハンドルを前方へ引き寄せて、両方のモジュールのボルト穴の位置を合わせます。
15) 4 本のボルト（片側につき 2 本）を挿入し、全てのボルトが設置されるまで各ボルトを指で締めます。
16) ソケット工具を使用して、4 本全てのボルトを締めます。締め付け付けトルクは、35 フィートポンドから 40 フィートポンド（47 ニュートンメートルから 54 ニュートンメートル）です。
17) 最上位のモジュールから仮設用専用ハンドルを取り外します。設置したばかりのモジュールのハンドルについては、この時点ではそのままにしておきます。
18) アレイに追加モジュールを設置するには、手順 11 から手順 16 を繰り返します。フレームの荷重制限を越えないようにしてください。
19) アレイを最終の高さまで吊り上げる前に、全ての仮設用専用ハンドルを取り外します。
20) 配線を接続して、スピーカーの動作をテストしてから、アレイを最終の動作位置まで吊り上げます。

図 5. 1 番目のモジュールへのフレームの位置決め

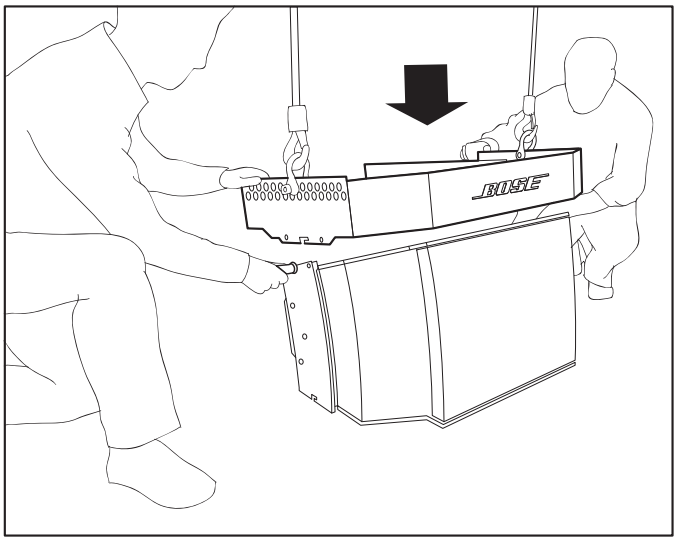
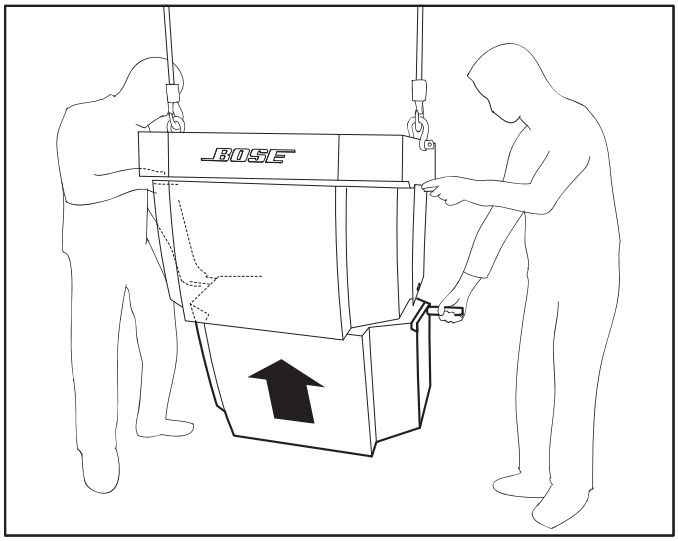


図 6. 1 番目のモジュールへの 2 番目のモジュールの取り付け

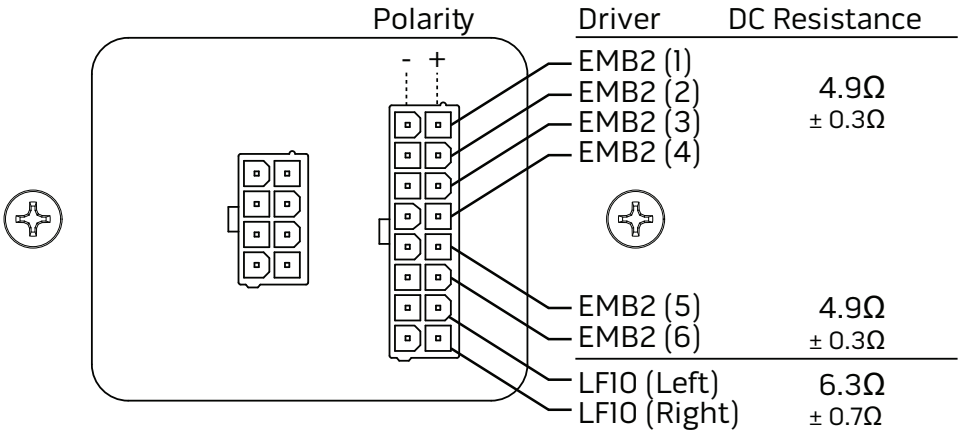


アレイの配置と設置の詳細については、pro.Bose.com からダウンロードできる『RoomMatch™ Array Design and Installation Manual』をご参照ください。

トランスデューサーのテスト用サービステストパネルについて

RoomMatch™ モジュールはサービステストパネルを備えており、トラブルシューティングや点検 / 修理を行うために、それぞれのトランスデューサーへアクセスすることができます。トランスデューサーのテストポイントにアクセスするには、パネルの 2 本のネジを緩めて、ネジ頭を超える位置までパネルをスライドさせます。図 7 に示すように、コネクター付きの回路基板が現れます。ボイスコイル故障をテストするには、デジタルマルチテスターを使用して各トランスデューサーの開放時の直流抵抗を測定してください。以下の図 7 には、動作可能な通常のトランスデューサーの値を一覧で掲載しています。

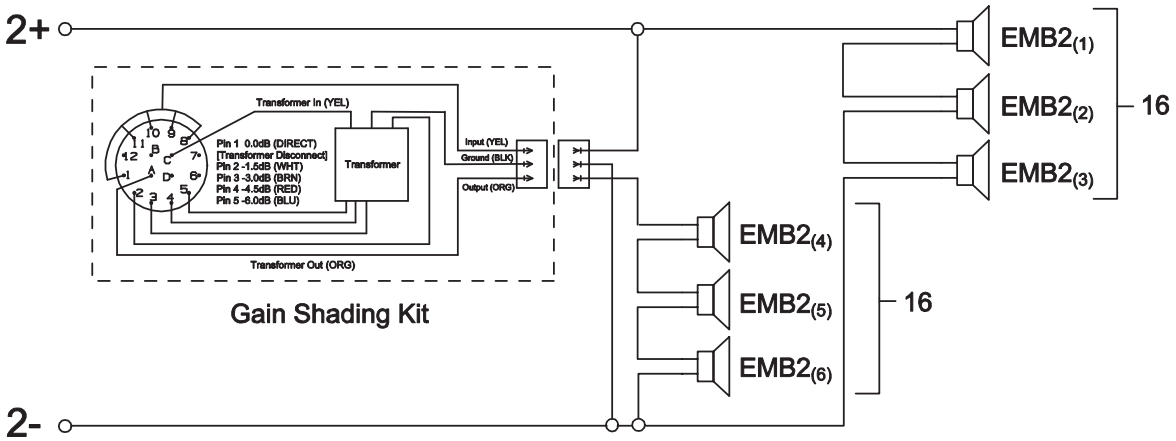
図 7. テストパネル配線図と個々のトランスデューサーの直流抵抗値



オプションの Gain Shading Kit の取り付け

RoomMatch™ モジュールでは、オプションの Gain Shading Kit を使用して、高音域側の 3 本に対して低音域側の 3 本を相対的に減衰させることができます。このオプションにより、モジュールからモジュールへの指向係数の大きな変化を利用して、アレイ配置における均一なカバレッジを実現します。図 8 は、Gain Shading Kit を使用した中音域 / 高音域コンプレッションドライバーの電気回路図です。

図 8. Gain Shading Kit を使用したコンプレッションドライバーの電気回路図



エンクロージャーの塗装

RoomMatch™ モジュールは、「KRYLON」などの溶剤ベースのスプレー式塗料で塗装することができます。塗装面を十分乾燥させて、油分やごみ、ほこりをきれいに取り除いてから塗装を行うとよりきれいに仕上げることができます。塗装を行う前に、必ず目立たない部分で試し塗りを行ってください。グリルは取り外して、本体とは別に塗装してください。金属製グリルの穴が塗装によって塞がれていないことを確認してください。ウーファー、マニホールドスロット、背面入力パネルをマスキングして、これらの部分を塗装しないようにしてください。

その他追加情報

製品についての追加の情報がお知りになりたい場合は、http://pro.Bose.com/をご覧ください。

お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　サービスセンター　お客様専用ナビダイヤル 0570-080-023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。
〒206-0035 東京都多摩市唐木田 1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　お客様専用ナビダイヤル 0570-080-021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

ボーズ株式会社 http://www.bose.co.jp/
〒150-0036　東京都渋谷区南平台町16-17 渋谷ガーデンタワー 5階

BOSE Better sound through research

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1483-D
12・11 (B)